

中野市環境審議会会議録

会議名	平成 29 年度 第 1 回中野市環境審議会			
日時	平成 29 年 6 月 27 日（火） 14:30～16:15			
場所	中野市民会館 42 号会議室			
出席者	（審議会委員）			
	中村秀人会長	望月隆副会長	渡辺五男委員	丸山正光委員
	下川昌平委員	鈴木富夫委員	小山むつ子委員	山浦克人委員
	丸山久治委員	津金裕子委員	山岸恒夫委員	川島幸子委員
	宮澤なおみ委員	福島芳枝委員		
	（事務局）		（委託業者）	
	佐々木正くらしと文化部長		総合環境研究所 上原正人	
	竹前辰彦環境課長			
	小林登課長補佐兼環境係長			
	宮澤博之衛生係長			
小林来世展副主幹				
坂本健太主事補				
欠席者	竹内義明委員、中島正幸委員、高澤弘幸委員、金井哲雄委員			
課長	（開会）			
	（池田市長より委員に委嘱書の交付）			
市長	（市長あいさつ後、退席）			
	（委員自己紹介）			
課長	初めての委員もいらっしゃいますので、事務局より中野市環境審議会について説明をします。			
課長補佐	（配布資料「中野市環境審議会条例」、「中野市環境審議会の公開」により説明）			
	（会長・副会長選任について、中村会長、望月副会長との事務局案が承認される）			
	（中村会長、望月副会長あいさつ）			
会長	協議事項（2）第 2 次中野市環境基本計画素案について、事務局から説明をお願いします。			
副主幹	（第 2 次環境基本計画策定の概要、素案についての説明）			
会長	素案について意見をお願いします。			
委員	<p>前回会議から環境基本計画を策定して環境を保全、改善するのは何のためにやっているのかわからなくなってきた。ひとつは、今いる市民がこれからも継続して何世代にもわたって生活できる環境を維持・改善すること。公募委員の中にも 2 名県外から移住してきた方がいる。中野市のこれからの発展のために環境は良いツールになる。環境の良さをアピールポイントにし、人口減に対して外から入ってきてもらえるという方向に持っていけないか。</p> <p>対象範囲が記載されているが、何か事変や災害が発生したときに、住んでいる場所に自信を持っている人は、ここら辺では多いかもしれないが都会では少ないのではないかと。太陽光パネル設置に市が補助金を出したり、空き地に太陽光パネルが設置されたり、他にも小水力発電やバイオマスエネルギーなど再生可能エネル</p>			

	<p>ギーは発展すると思うが、中野市の電力使用量のどれくらいが賅われているのか。可能性としては市全体の使用量を賅えるのではないかと考えている。飲料水も良い水源が十分にある。食糧も何人くらいに対して提供できるパフォーマンスがあるのかをうまく表現して、市外の人にもアピールできるものを取り上げて計画を実施していくときに、知ってもらえるようにできれば良いのではないかと。長野県のごみ排出量が全国一少ない等、指標として全国平均に比べてどうなのか、待機児童等の教育問題、医療関係等が充実していることをアピールできれば良いのではないかと。観光や工場誘致等では難しい気がするので、環境がニーズになるのではないかと検討してもらえればと思う。</p>
課長	<p>豊田地域では、ふるさとの原風景を守りながら、環境をアピールできるようなことを考えています。多岐にわたる内容を話していただき、全部を盛り込むことは難しいですが、市外の人にもアピールできるようにしたいと思います。</p>
委員	<p>数値化できるところ、良いところをアピールできるようにしてほしい。住みやすさ調査の中で、環境の面で暮らしやすいということが評価の対象になるかもしれないので、中野市は良い取組をしていると言われるようになればよいのではないかと考えている。</p>
部長	<p>環境基本計画の範囲としては、記載している内容を主な項目とし、提案された内容の中で盛り込めるものは取り組んでいきたいと思っています。全体としては自然環境やごみの削減といった内容を基本とした計画としています。</p> <p>東洋経済新報社の「住みよさランキング」の2017年版でベスト50に入り長野県でトップになりました。15項目の指標により評価しています。</p>
委員	<p>本計画に限らずに市として、市外の人にも市内の人にも広報できるようにしてほしい。</p>
委員	<p>横浜、東京に住んでから中野市に移住してきた。空気のきれいさや農産物等、環境の良さを満喫しているが、地元の人には良さをわかっていない。長寿日本一と言うことは長寿世界一と言うことなので、健康に過ごさせている。長野県人はアピールすることが苦手だと思う。悪い環境で暮らしたことがないので、これだけ素晴らしい環境であるということアピールしないのかと思う。中野市の野菜、果物、キノコ等の農産物もすばらしいのに、「何でこんなところに来たんだい。」と近所の人に言われる。環境施策について、トピックス・目玉となるもの、特化した施策を打ち上げ市民がまちを誇りに思う気持ちを奮い立たせ、市民の取組に自信を持てることにより施策が進むのではないかと考えている。市街地でもホテルがあるが、都会では考えられない。ホテルを目玉にすれば観光や移住等、色々な人が中野市に注目してくれる、市民はそれを誇りに思いさらに環境施策が進むという良いスパイラルが進んでいくのではないかと考える。</p> <p>過去10年間との施策の違いは東日本大震災、原発事故の発生が大きい。原発事故を重く受け止めて、核を使わない再生可能エネルギーのまちとして、地球環境を良くしようという啓発が必要ではないか。それによりエネルギーを使わない、核を使わない、人類と核は共存しないという教育も入れながら進めていくことが良</p>

	<p>いと思う。「目標Ⅴ 地球環境にやさしいまちにします」、「11 環境にやさしいエネルギー利用を進めよう」という項目に、核に頼らないエネルギーを子どもにも教育して、グローバルな意味での啓発活動を計画の中に盛り込めればと思う。</p>
部長	<p>比較してやっっていけばより鮮明になります。</p>
委員	<p>有害鳥獣について、平成 24 年度の表が記載されているが、豊田地区では平成 24 年頃からイノシシが出始めた。カモシカもいるがニホンジカの害が多い。平成 24 年度以降の被害が記載されていないので、最新のデータを記載してほしい。私の感覚ではニホンジカよりカモシカの害が多い。農業委員や J A でカモシカをたくさん捕獲できるように陳情をしてほしい。ニホンジカは捕獲してよいが、カモシカは捕獲してはいけない。しかしカモシカは確実に増加している。長嶺の運動公園でも見られる。表では巨峰になっているが、シャインマスカットが増えているので、表のデータを新しくしないと被害等の現状を反映できない。イノシシも年々、住宅街への出没が増加している。そのような状況で平成 24 年度のデータを見せられても納得しない。なるべく最新のデータを示し、対策について生活環境と農政が連携し、早く手を打ってほしい。</p>
課長	<p>統計によっては毎年とっていないものもありますが、データはなるべく新しいものを使用します。</p>
会長	<p>私はカモシカを見ていない。</p>
委員	<p>死骸を見つけた数日後に山に入ったら出現した。最近も 1 頭見ている。国からの決まりで、市で捕獲できる頭数は決まっている。その頭数を増やさないと、リンゴの幼木がみな食べられてしまう。ハンターも頭数制限を超えて捕獲できないので、農業委員会、J A で枠を増やすように陳情してほしい。</p>
会長	<p>有害鳥獣の個体数がはっきりしない部分はある。捕獲個体数を増やすことについては猟友会長にも聞いてみる。</p>
副会長	<p>農協としても有害鳥獣の問題には苦慮している。シカ、イノシシについては、猟友会とも協力して捕獲している。捕獲できる個体数については、行政とも連携して農産物の確保のために働きかけていきたい。ハクビシンが増えているので、行政と連携して捕獲している。農業委員会、J A、猟友会、行政等と一緒に取組まないといけない。</p>
委員	<p>悪臭について、中野市では何が主となっているのか。 喫煙ルームが市民会館入口にあるが、市民だけでなく市外の人も出入りする場所だが、煙の吸い取りが悪く、玄関に入るとタバコの臭いがする。もう少し予算をかけて、ドアの開閉をしても煙が外に漏れないようにしてほしい。携帯電話の電池等の回収ボックスを設置してほしい。</p>
課長	<p>携帯電話の回収を 7 月 3 日から開始できるように準備しています。喫煙所の関係については担当部署に伝えます。</p>
課長補佐	<p>悪臭は畜産関係が主となっています。</p>
委員	<p>外来生物について、アレチウリはニュース等になるので気を付けてみているが、アメリカネナシカズラが爆発的に増えている。少ないうちに駆除してほしい。上</p>

	今井橋を渡り豊田方面に行く時、上今井駅に上がる道の畦畔沿いで多く見られる。行政で早いうちに駆除してもらえればと思う。あちこちで苦慮している。
課長補佐	現状を把握し、できることは早く実施します。
委員	おてんまで側溝の泥上げをするが、畑等の土地がある所に置くようになる。量が多く一山になってしまう。それを片付けてくれる手段はあるのか。
係長	年2回の市民大清掃の時に、市から区に土のう袋を配り、区から連絡があればごみステーションに出していただいています。
委員	そのような段階ではなく、2t車1台分くらいになっている。泥上げができない状況になっているので、どこかで処理をしてほしい。
部長	雨水排水は道路側溝の扱いになるので道路管理者、農業用水は土地改良区や市農政課の管轄になります。実情を区を通して相談していただきたいと思います。
会長	目玉があるとわかりやすいとの話があったが、第一次計画との違いがあれば教えてほしい。指標の具体例は次回の環境審議会に示され、審議できるのか。
副主幹	環境基本計画の策定方針では、現計画をベースとするという方針が示されています。環境問題の状況は変化していますので、現在市で取り組んでいる事業も変化しています。そういったものは、市の取組として反映していきます。次回審議会には、おおむね新しいデータを反映し空欄となっている箇所を埋めて提示させていただきます。
委員	平成30年3月の完成に向け、最新のデータに更新する等、努力してほしい。
委員	産業について、平成22年までのデータになっているが、10年後の計画を策定する上で、行政がどのような政策をとっているのか知りたい。
部長	産業構造については、市の上位計画の中で将来予測しながら、議論しています。
課長	新規就農者、移住者を増やす施策を担当課では考えています。
委員	環境基本条例の基本理念2.環境への負荷が少ない持続可能な社会を構築するについて、環境教育の中で「保全と開発」ということが強く言われている。素案の中には「保全」は多く出てくるが、「開発」という言葉が出てこない。自然を無視した開発が自然を壊しているという大きな問題点が出て、「保全」に大きくシフトした。自然の保全を考えながら開発をしていくことで環境が持続していくという意味合いを込めないといけないのかと感じる。有害鳥獣の問題にしても、子ども達が中学生になり勉強すると、有害鳥獣が出てきたのは里山がなくなってきたからだと調べてくる。農業が苦しいので有害鳥獣の駆除をしなければいけないということも、保全だけをうたうと進めていきにくくなることもあると思う。「保全」だけではない部分も示さないと苦しいと感じる。 延徳の田にカブトエビが復活した。本来は外来生物で、60～70年前に入ってきた。昔の風景に戻ったという人もいるが、本来の姿ではない。人間の感覚でこれが良いというのだけではなく、「開発」であったり、守るために人間が手を入れるということも記載したほうが良いのではないか。
部長	自然は人間と関わってつくって行くもので、まったく人間が入らずにありのままの環境が天然。天然は生物の多様性にとって必ずしも良い環境ではなく、人間の

	<p>手が入ることで、色々な生物が共存できる環境となっているところもあります。そういったことも記載し、生物の多様性等につながっていくと考えますので、学習の中でも活用できるような内容としたいと思います。</p>
委員	<p>地球温暖化にどう適応していくかが大きな課題になる。上位計画を含め、どのように適応していくのかということを考えていってほしい。心構えが必要となるのでぜひお願いしたい。</p>
会長	<p>いただいた意見は計画に反映していく。以上を持ちまして本日の審議は終了する。</p>
課長	<p>その他として、次回審議会の開催は8月下旬を予定していますので、よろしくお願い致します。</p>
課長	<p>(閉会)</p>

(以上)